

# IoT 時代の暮らしと近未来サービス

## The Lifestyle and New Services in the IoT Era

ソニー株式会社 島田啓一郎

Sony Corporation, Keiichiro Shimada

E-mail: Keiichiro.Shimada@sony.com

### 1. 第4次産業革命～Society5.0 時代の特徴

従来の情報化社会との違いは第 1 に「実世界（人・モノ・街）の自動把握（センシング）」、第 2 に「情報処理アルゴリズムの自動生成（発展した人工知能）」、第 3 に「実世界制御の自動化」にある。その要素が IoT・ビッグデータ・人工知能・ロボットであり、これにより最も変化するのは、第 4 次産業革命実現で新たに生まれるサービス産業である。

### 2. 科学技術の進化が顧客価値を拡大し、暮らしと社会に変化を起こす

第 3 次産業革命では人が入出力する情報の記録・処理・伝送の自動化（ビット化）とムーアの法則連動のビット単価の低減で、業務効率向上価値～コンテンツ感動価値～コミュニティ共感価値の消費価値向上が 60 年にわたり順次産業化されていった。ソーシャルネットワークサービスを筆頭とするスマホとアプリとクラウドサービス及びコンテンツの利用はその完成段階の事例である。これに対して第 4 次産業革命～Society5.0 時代は、実世界のサービスが進化する。食べる、健康に暮らす、作る、動く、運ぶ、などの効率・品質が向上し、新たな価値も生まれる。

### 3. 制約からの解放が新たな生活文化を生む

技術進化により暮らしの文化や社会がより豊かになる際には、時刻・場所・手間・費用などの 5 分野 11 種類の制約からの解放（ないし制約の緩和）が起きる。これは過去のイノベーションでも今回の IoT でも同じ発想が通用し、これらの制約解放が産業を生む。

### 4. 「動く」「運ぶ」のハードルが下がることによる制約からの解放

Society5.0 時代の社会変化の予測として最もわかりやすい事例は、移動物体の制御の自律化、すなわち自動運転により、人やモノの移動や運搬のための障壁が低くなることである。ここでも様々な制約からの解放（ないし制約の緩和）がおきて、オンデマンドの送迎や物流に加え、車内や車外のエンタテインメント活用や、街と地域の再構成まで含む新たなサービス事業が生まれる。

同様に「作る」「食べる」も進化する。例えば農業生産から食品消費までの一連の流れを IoT で見直すことは、ムダの縮小と豊かな食生活の両方に効果が出る。

### 5. ビジネスモデル創造とエコシステムプロデュースが必須に

IoT 時代に豊かなライフスタイルと社会課題の解決を提供する新サービスを事業化しようとする時、マネタイズにおいて重大な課題に直面する。そこで直接受益者以外の収益源を求めるビジネスモデルの創造と、異業種を横断的にまとめるエコシステムのプロデュースが必須である。